

「タイ・チュラロンコン大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部3年 大八木一穂

今回のプログラムは非常に楽しく刺激的で、自分の夢を実現しようという気を起こさせてくれるような意義のある体験だった。以下具体的に振り返ってみる。

まずは現地の学生たちとの交流について。私が今回一番驚いたのが日本語学科の学生達の日本語のレベルであった。私達と何不自由なく日本語で会話ができるし、日本語で授業をしていた。日本のこともよく知っている。私にはそれが非常に新鮮に映ったし、またいい刺激になった。単純にもっと勉強しないと、と焦りに近いなにかを覚えた。この交換留学の利点の一つに学生同士の相互作用にあると思う。歳の近い日本とタイの学生が実際に交流することで、お互いの長所や違いなどについて様々な気づきを得ることができる。それをどう還元するかは個人によるが、各人の人生にとって、貴重で価値があり、なかなかできないような体験であることはいまでもないと思う。

次にこのプログラムについて。このプログラムは言語学習に取り組む者に良質な学習機会とモチベーション、そして実践的な使用の機会を与えてくれる。

このプログラムではチュラ大の先生に実際タイ語を習ったり、授業に参加できた。タイ語を勉強し始めていた私にとってありがたかったことは言うまでもない。このプログラムは自由時間も多くあり、そこで習ったタイ語を実践できたのもとても楽しかったし、勉強になった。現地の人と現地の言葉でやり取りすることが、こんなにも楽しくてワクワクすることを改めて実感した。この気持ちを忘れずに引き続きタイ語学習に取り組みたい。

最後に、このプログラムに参加するに至った経緯と感想を述べて終わりにしたいと思う。このプログラムには、これまで数回訪れたことがあった、大好きなタイに行けるかもしれないという単純な気持ちで応募した。単純すぎて本当に申し訳ないと思う。しかし終わってみると、得る物はとても大きかったように思う。これまではタイに旅行という目的でしか来たことがなかったが、今回の短期留学で、実際に生活し、学生生活を送ってみるという経験を通して、これまで見たことがなかったタイの新たな側面を発見できた。今後、タイで働きたいと考えている私にとって大きな収穫である。このプログラムに参加するか迷っている人に言いたいことは、単純に参加して後悔するようなことは一つもないということである。いや、一つだけあるとすれば、もっと遊びたかったということかもしれない。